

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 20 年 8 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ		
所在地	福島県田村市常葉町七日市場9番地 (電話) 024-777-3001		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年9月2日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	4~10月 14,900円 11~3月 18,000円
敷金	有() 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(30,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人明孝会 青山医院 医療法人 村越歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1400坪余りの広々とした高台の敷地に、鉄骨平屋建てで、明り取りのある高い天井と一枚ガラスを配置した明るい共有空間は風通しもよく、生活環境に恵まれた2ユニットのグループホームである。河川や畑地を眼下にしながら、季節の花に彩られた環境の中で、利用者は野外での楽しみを満喫している。人生の先輩として職員が利用者からアドバイスを受けることもあり、管理者を中心に利用者と一緒に生活を楽しみながら支援している。ケアマネジメントについても利用者のアセスメント表により状況把握を十分行いながら、日常生活から思いや意向を把握し、ケアプランに反映させている。運営推進会議については、ガイドライン等を作成し趣旨に沿った運営が行なわれるよう望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前は運営推進会議の定期的開催について改善が求められたが、2ヶ月に1回定期的に開催されている。
	自己評価については、全員参加で行なっており取り組みの事実を明確にしている。全体的には管理者が総括し、一層の質の向上に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 2ヶ月に1回定期的に開催しているが、ただ、委員のうち出席者が度々変更しており、会議の趣旨や自主的運営についての理解が不足しているように思われる。運営推進会議は委員長が招集し、委員の守秘義務、事業者の役割等を定めた運営推進会議のガイドライン等を作成し、それらに基づいた運営を行なうことが望ましいと思われる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的に近況や行事の写真等添え家族へ伝えている。また、毎月の利用料は、持参される方が殆どで、その際に出納帳の収支状況の確認をもらうなどしており、金銭管理は適正に行なわれている。家族等の面会者も多く、ケース記録等による情報も提供し、家族からの要望等を聞き、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、事業所が定期的に創設記念日に主催する「はこべ祭り」には、地元の老人会や保育園児が参加するなど和やかな交流の場となり定着している。町内のお祭りや文化祭等の行事にも積極的に参加しており、ボランティアの受入れについても前向きであり、地域との連携は円滑に行なわれている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に「地域密着型」の趣旨を具体的に表現した理念を加えたものを職員全体で作成しており、利用者が普通の生活をしながら地域に溶け込んでいけるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の作成に当たって、全職員が参画しているので、日常のサービスにあたっても自主的・積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	創設記念日の「はこべ祭り」では、利用者も一緒に近隣住民一軒一軒にお知らせを配ってまわり、当日には流しそうめんを楽しんだり、地元老人会や子供たちが協力して踊りを披露するなど親交を深めている。また、町内の秋祭りや文化祭にも参加しているので地域との交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、運営者をはじめ全員が十分理解しており、外部評価で指摘があった点については職員全員で検討し、改善に向けて取り組み、利用者支援に活かしている。運営推進会議の定期的開催については改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。事業者が会議の招集や進行を行い、委員は参加者として情報交換を行なっているが、会議の都度、委員が変わっているようである。	○	運営推進会議は、目的や事業内容、委員構成、会議の委員長等、委員の守秘義務等をガイドライン等で定め、実質的な運営を行なうことが必要であると思われる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に発行する「はこべ通信」には、個人情報・肖像権に配慮して利用者の近況を報告している。金銭出納帳のコピーとレシートについては、近隣の家族へは毎月の利用料を持参する際や一時帰宅の折に、遠距離の家族には郵送で報告し、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には事業所側から家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、定期的に3ヶ月に一度居室担当者が直接家族と話し合いを行うことでより具体的な意見や要望、不満などを聞き取り、サービスの質の向上を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者を除く職員の異動は無く、事業所内での担当が変わることはあるが、その際には前任者と後任者の間で十分に引継ぎを行い、利用者には不安や混乱が起きないように留意している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、参加費など経費の全てを事業所側が負担することにより、職員が参加しやすい環境になっている。日常の研修は職場内研修（OJT）によるトレーニングに重点を置いている。		人材育成を目標とする年間の研修計画を立て、職員のステップアップやスキルアップに努めること、受講者は研修結果をミーティングなどで報告することを習慣づけることで、職員の質の向上を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町の事業所との相互訪問を年4回計画しており、勉強会や最新情報の収集に努めている。今後は合同の行事や新人研修を検討するなど、同業者との交流については、運営者の理解が得られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の認知度に沿った残存能力を最大限発揮できるように職員全員が心がけており、食事の際には職員は利用者が菜園で栽培した野菜であることを話して感謝の気持ちを伝えている。また、方言を使わないと打ち解けてくれない利用者には、臨機応変に対応し理解を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートやアセスメント表を活用し、利用者の日常生活から思いや意向を感じ取りまた、家族の意向をうかがいながら把握に努め、ケアに反映するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた計画となっている。毎月利用者や家族の希望を踏まえてカンファレンスを行い職員の意見やアイデアを取り入れ個別・具体的な計画作成に努めている。		A棟B棟とも介護記録は、詳細に記録されてある。介護計画に基づくサービスの実施記録を簡潔に記録するなど、本来のケアに負担がかからないよう合理的な記載方法を検討してはどうかと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に見直しを行っており、利用者の状態変化に対しては、家族や関係者と話し合い、適時見直しを行なっている。介護計画実施記録表を見直しの際の参考としてモニタリングを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携が密に行なわれており、受診・往診や緊急の際の医師の指示など信頼関係のもとに適切な医療が受けられるよう図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との連携のもとに重度化や終末期に対する事業所として対応できる方針を定め、3ヶ月ごとに家族、主治医との話し合いを行い、同意書により意見を確認し共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し誇りを損ねないよう言葉遣いにも十分留意したり、採用時に誓約書を取り、個人情報保護に関する法令順守を徹底するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みや得意分野を把握し、自由に過ごせるよう、作業やレクリエーション、散歩外出などできるだけ希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者と相談し、一緒に食材を買いに行ったり、敷地内の畑で採れた旬の野菜を使うなど工夫している。職員も利用者と一緒に食事を楽しみながら、さり気なく介助している。隣接するショートステイの栄養士によるカロリー計算を参考にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるようになっており、本人が希望する時間に入れるよう支援している。利用者の様子を見ながら、希望や状況に合わせて、楽しみながら入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	お茶入れ、調理、掃除、畑仕事、行事の企画等利用者の得意分野や好みを把握し、場作りをしながら支援している。また、希望する買い物や外出にも対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩等出来るだけ外出の機会を設けたり、短時間の外気浴を行なっている。また、ドライブや外食を楽しみながら気分転換を図ることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員のさり気ない見守りにより、落ち着いて過ごしており、日中は全てに鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者のもとに、消防署の協力を得ながら、定期的に避難訓練を行なっている。夜間を想定した訓練も実施している。運営推進会議を通じ、地域の人たちの協力との連携を検討している。食糧や水等の備蓄があり、石油ストーブも備えてある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取量を把握し、定期的に体重測定を行なうなど、利用者の状態に応じて支援している。また、個別対応の調理や食事メニューを取り入れ栄養管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はA棟B棟が並んでいて双方とも開放されており、訪問者や利用者の出入りに速やかに対応できるようになっている。自然光を取り入れた広く明るいきりびんぐでは、利用者が落ち着いてゆっくり過ごすことが出来ている。高低差のある隣地との境界にはフェンスが設置されていて安全が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活歴を大切に考えた空間になっており、寝具は畳に布団、ベッド利用と好みに応じてしつらえてある。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム はこべ

記入担当者名 熊田 裕子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。